



「にっぽんいち」
(5歳児の作品)



〈提供 八幡西支部〉

「あけまして おめでとう」

(5歳児の作品)

表紙	1
新年挨拶	2～3
保育まつり2022	4～5
第60回 北九州市保育研修大会	6～7
仲間たち	8～9
研修・一期一会	10
元気のもと	11
雑感・編集後記	12

雑感 ボランティア活動でみえたもの

私自身が、子育てと共に親育ちをするために、子ども達が小中学校在学中、PTA活動や学校支援地域事業に参加してきました。

小学校や中学校では、朝の登校指導の一環である挨拶運動に参加していました。子ども達から元気に挨拶してくる子、恥ずかしそうに挨拶してくる子、元気のない子、うつむいたままの子、空を見上げている子など様々でした。挨拶で気になる子は学校の方にお知らせしていました。前日気になっていた子たちが、翌日元気な姿で登校してきたときにはほっとしていました。

小学校では、学校支援地域事業の一つであるスクールヘルパー活動に参加して、学校の休み時間等、子ども達を見守りながら校内を巡回していました。子ども達との関わりで顔見知りになった子ども達から、親には話せない事、友だち関係の事、先生に対しての不満など相談を受けることもありましたが、聴くことしかできなかったのですが、子ども達に笑顔が戻ったときは嬉しかったですね。また、親御さんとも顔なじみになり、お子さんが気になる親御さんの方から様子を見てくださいと頼まれることもありました。

また、中学生ともなると思春期の真っただ中、いろいろな問題を抱えている子もいて、教室に行かず、売店、保健室で時間をつぶす子もいました。授業は受けなけれど、学校を居場所として登校していました。中には朝ご飯を食べていない子も多く、当時は給食ではなくお弁当でした。お弁当代として親からお金を渡されるのですが、お金はお小遣いに廻して食べない子もいました。お腹が空いては何もできないのではと、当時の校長先生に許可をいただいて、おにぎりを持って行き、食べていない子に渡していました。おにぎりを食べた時にあの子たちは私を思い出してくれているだろうかと思うこともあり（笑）。

そして、子育てがある程度落ち着いてきた頃、保護司へのお誘いがありました。少し、興味もあったので引き受けることにしました。今まで担当したのは、10代の男女や成人です。傷害事件やバイクの窃盗、暴走行為、薬物などが原因です。月2回の面会を行います。当初は、約束した日程を守らなかったり、連絡が取れないことも多々ありました。面会の回を重ねることに、素直に面会に応じしてくれるようになりました。また、面会の際のことは遣いも社交辞令並みのことが話せるようになってきたときには嬉しかったです。

今までのPTA活動や保護司の活動から、子ども達との関わりの中で感じた事は、子ども達の生まれ育ってきた環境、生育歴の影響の大きさです。今までの経験と、現在、保育園で乳幼児と関わり、ますますこの乳幼児期の関わり方の大切さ、愛情たっぷりの子育てが必要なのではと実感しています。昨今では愛着障害から起こる発達障害も増えてきています。子ども達が心身ともに健全に成長してくれることを願うとともに、そのためには、乳幼児期に関わる機関、家庭の中で、よい環境のもと、心身の発達を図ることの大切さを感じています。

葛原保育園 水野 圭子

編集後記 — 言葉 —

日本語の中で最も美しい言葉は何だろうと思いました。その中でも自分が日常に使う言葉と言うと、「おかげさま」「ありがとう」「すみません」「もったいない」等々とあります。

日本語は最も難しく、美しい言語で漢字一つで様々な意味を持つ言葉や、日本語でしか表現できない述語など、海外の人にとっては沢山の驚きがあるようです。

NHKで以前、美しい日本語のアンケートをとった結果、選ばれている言葉は「ありがとう」「さようなら」「はい」「すみません」「おはようございます」「さわやか」「いらっしゃいませ」「おやすみなさい」「どうぞ」「いいえ」でした。

日常的に使っている話し言葉ですが、耳で聞いたときに美しく響く言葉なのでしょうか。

以前、町内の掲示板に挨拶運動の一種で日頃から言えるように心がけようというオアシス運動の頭文字をとった言葉が張られていた。

オアシス運動

オ 「おはようございます」または「お疲れさまでした」

ア 「ありがとうございました」

シ 「失礼しました」

ス 「すみませんでした」

コロナ禍の中だからこそ、温かい言葉から心のつながりを築きあげてゆき、言葉の積み重ねを大切にしていきたいと思います。

今年度も皆様に役立つ情報を委員一同発信してまいりますので「保育北九州」へのご協力をよろしくお願いいたします。

「保育北九州」編集長 西 敏 昭

新年のご挨拶

一般社団法人北九州市保育所連盟

会長 酒井 光義



あけましておめでとうござい
す。会員の皆様には、健やかに新年を
迎えられましたこと、心よりお慶び
申し上げます。昨年は当連盟60周年
記念事業を始めとして、主催する各
事業におきまして、皆様方の多大な
ご理解とお力をいただきましたこと
心よりお礼申し上げます。本年も変
わらぬご協力のほどお願い申し上げ
ます。

新型コロナウイルス感染症の発生から既に
3年が過ぎました。未だに収束を迎
えることなく、4回5回とワクチン
接種が進んでいます。新たな変異
株の発生によって第8波の到来によ
る感染拡大が危惧されるところで
す。中でも乳幼児の感染が進んでい
ること、一層不安が募ります。その
ような中、医療従事者等の皆様とと

もに同じ感染リスクを負いながら、
子どもたちの健やかな成長と保護者
の就労支援を支えるため、エッセ
ンシャルワーカーの責務として、最大
限の感染拡大防止に努めながら継続
して日々の保育にあたられている会
員の皆様方に対し心よりのエールを
送ります。ご苦勞様です。そしてあり
がとうございます。

令和4年度の初めより部分休園の
実施となり、休園日数も縮小される
など保護者の就労支援については緩
和されてきた感があります。さらに
国の方向性として経済が停滞や沈下
することの無いよう進められている
現状は、理解することは出来てもど
こかしら不安は拭えません。保育園
関係者にとつての現場は何ら変わる
ことなく、これまで通り最大限の感

染拡大防止に努めながら継続して
日々の保育にあたっているという事
実は、国をはじめ地方行政の方々の
深い理解とともに、せめてそれに見
合う処遇の改善を強く推し進めてい
ただきたいと願うことです。

さて、令和5年4月1日より、「こ
ども家庭庁」が設置され「こどもま
なな社会」の実現を目指した施策が
実施されます。こどもと家庭の福祉・
保健その他の支援、こどもの権利利
益の擁護を一元化、年齢や制度の壁
を克服した切れ目ない包括的支援の
実現、就学前の育ちの格差是正、こ
ども・子育て当事者の視点に立った政
策の実現といった、就学前の全ての
こどもの育ちも保障するというもの
です。子ども基本法の制定など子ど
もに特化した部門としての創設は画
期的な施策で、将来を見据えた方向
性として評価されるものであり、乳
幼児の保育、教育に携わる関係者に
とつては大きな前進であると受け止
められることでもあります。然しな
がら細部においては精査すべき項目
も多く、施行にあたるまではもちろ
んのこと、施行後もその動向には注

視し、早急に適切な判断と共に意見・
具申するなど保育団体としての行動
が行われるよう努めねばなりません。
せつかく子どもに目を向けた政
策の開始だけにとても重要なことで
す。

新たな局面を迎えた新年です。そ
して60年という歴史を積み重ねてき
た当連盟の新たな一歩です。先人の
思いをしっかりと受け止め、一層の
結束力でもつて北九州の保育魂を発
揮していく年としたいと思います。

新年を迎え、これまで築き上げてき
た認可施設としての誇り、保育施設
としての誇りを胸に、「保育」そのも
のはこれまで通り「子どもたちの立
場に立った視線で」「視点はいつも
子どもたち」を合言葉に会員一同と
もに歩んで参りましょう。本年もど
うぞよろしくお願い致します。



門司支部

支部長

西

敏昭

保育士会長

白石

弘子

小倉北支部

支部長

林田

猛利

保育士会長

室田

尚子

小倉南支部

支部長

伊賀良 昌宏

保育士会長

山崎

啓子

会長

酒井

光義

顧問

西村

賢了

副会長

山本

文雄

松尾

副充

北野

久美

林田

猛利

保育士会参与

中村

尋子

保育士会副会長

黒田

玲子

富士田

直美

重國

香

本年も宜しく
お願いいたします



若松支部

支部長

松尾

副充

保育士会長

小野久美子

八幡東支部

支部長

岡本エミ子

保育士会長

西山かおり

八幡西支部

支部長

山本 文雄

保育士会長

坂田 里美

戸畑支部

支部長

平田 敬子

保育士会長

坂本 環

北九州保育所連盟60周年記念

保育まつり2022

(一社) 北九州市保育所連盟 企画委員長

山本文雄

すっきりと晴れ渡った令和四年九月四日(日)に、(一社)北九州市保育所連盟60周年記念「保育まつり2022」が、リバーウォーク北九州のエナジーコート及び北九州芸術劇場大ホールにて開催されまし



た。今年度は四年に一度の市内七区合同による保育まつりでした。会場を決めるにあたり、今回はこちらから人が集う場所に向き行うこととしました。

まだまだ、北九州市は新型コロナウイルス感染症の第七波が続く、その対策にも苦慮しながら、皆様からの確なアドバイスを頂き、一つ一つ検証し、内容を考えていきました。受付では検温はもちろんのこと、体調確認、新型コロナウイルス接触確認アプリの推奨、参加者連絡表(氏名、電話番号、着座位置等)の記入、手指消毒の徹底を行い、間隔をあけての着席を徹底することとしました。保護者や子どもたちと関わる遊びのコーナーでは一回終わるごとに遊具の消毒をし、手作り玩具コーナーでは様々な事態を考慮して、完成した手作り玩具を渡すこととしました。

前日、黒く厚い雲に覆われた空か

ら、時折雨も降り、人出を心配しましたが、当日は快晴の中、気温もぐんぐん上がり、汗ばむほどの陽気となりました。開場前から多くの方が並び、開会の時には、満席で立ち見をする方や、吹き抜けとなった会場を、上階のフロアから見下し、写真やビデオを撮られる方もいらっしゃいました。

正午、酒井光義会長の「これから子どもを視点にという考えのもと、行政と保育に携わる者たちが一緒に、子どもたちの未来のために努力していきましょう。」という開会挨拶がなされ保育まつりが始まりました。エナジーコートでは、舞台が設置され、園児による子ども太鼓「つながる いのちのたいこ」や、保育士による「みんなで踊ろう! キツズたいそう」と題して、ダンスや体操が披露されました。ステージの演目は行き交う人たちの関心をひき、その後、バルーンアートや「#認可保育所(園)」、おおきなかぶるぬけるかな? (劇)、音を楽しもう! オカリナ・ピアノ演奏と絵本と続き、たくさん拍手が聞かれました。「食育コーナー」では、分かりやすく作成された

パネルを展示し、多くの方々がパネルを丁寧に見て下さいました。「あそびのコーナー①・②」では、お気に入りの遊びを何度も繰り返し子どもさんもいました。「手作りおもちゃコーナー」「インスタ映えコーナー」では、趣向を凝らし、来場された方々を楽しませてくれました。何度も会場入口を行ったり来たりして、興味はあるけど、ちょっと勇気がでない子どもたちに声をかけて誘い、手作りおもちゃを渡したり、写真を撮ってあげたり、食育コーナーで配布のきのこ採りに誘ったり、コーナー以外でも動き回る保育士さん方がとても印象的でした。

北九州芸術劇場・大ホールでは、午後一時過ぎに北九州市長 北橋健治様にお越しいただき、「今年は、北九州市保育所連盟が昭和三十八年からスタートして60年という大事な節目の年、おめでとうございます。皆様は、子育て支援の大事な仕事につき、日々素晴らしい活躍をして頂いています。行政も、子どもを大切に守って育てて欲しいという市民の願いを大きな目標にし、一層の努力をしていきます。」と、ご挨拶されまし

た。大ホールでの第一部は、北九州市出身で、令和四年に幼稚園教諭二級免許を取得し、現在保育士資格取得のため、勉強中のつるの剛士氏によるトークショーでした。控室に飾られていた手作りのウルトラセブんとウルトラマンダイナのマスクを大事そうに持つての登場、すかさずウルトラマンポーズ、会場は一気につるの剛士氏の世界に引き込まれて

定の玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授の大豆生田啓友氏も登壇され、三人でのトークショーとなりました。息ぴったりの三人のお話は、とても楽しく、あつという間の時間でした。最後に「人生という長いスパンで考えたら、育児ってすごく短い時間だった。子育ては大変だけど、人生の土台づくりの時、土台づくりが終わって、そこからはじまる人生を楽しんで欲しいな」と結ばれました。



第二部の大豆生田啓友氏は、「いまどきの子育て、保育で大切なことゝ幸せ子育て・保育のコツ」というタイトルで、講演をされました。「私はダメダメ親でした。」と、ご自身の体験を交えながら、「意外と大事なことで今かもしれない。今、幸せに生きていることそのものが大事なのですよ。」と仰いました。幸せな子どもを育てる四つの因子(前野隆司)

の話を通じて、「自分をせめないで、自分を褒めて子育てをして下さい。」人は生涯発達します。今からでも遅くない。子どもはその子らしく、私は私らしくも、素敵な言葉でした。酒井光義会長の「保育園のやっていることは間違っていない。今どきの保育の在り方をホッとする思いで聞かせて頂きました。」という閉会の言葉に心から拍手を送りました。

今回、保育まつりを開催するにあたり、それぞれ担当の先生方が、何度も企画会議や準備会を設けて頂きました。市内全七区の保育所(園)のすべての先生方、事務局スタッフの方々の事細かなご配慮とご協力によつて無事に開催することができました。心より厚くお礼申し上げます。

一般の市民の方々をはじめ、保護者や行政、保育園関係者にとりましても、素晴らしいイベントとなったことに唯々感謝するのみです。この皆さんの団結力で、これからの北九州市の保育が、ますます全国に誇れる素晴らしい希望にあふれる保育となりますことを念じて、簡単ですが、ご報告とさせていただきます。

* およろこび *

瑞宝雙光章(令和4年春)

神岳保育園

園長 酒井光義

瑞宝雙光章(令和4年秋)

藤田保育園

園長 後根泰定

全国保育協議会 会長表彰

あおぞら保育所

所長 池内文恵

花乃路保育園

園長 永松貴美恵

石峰保育所

所長 有田美加

全国私立保育連盟 保育功労賞

あぶね保育園

園長 有野俊文

認定こども園のぞみ保育園

園長 境目智義

西村法昭顕彰会表彰

あぶね保育園

園長 有野俊文

神岳保育園

園長 酒井光義



第60回 北九州市保育研修大会

去る11月2日に北九州市男女共同参画センター・ムーブにて施設長特別研修、11月3日に北九州ソレイユホールにて北九州市保育研修大会が行われました。

第60回の節目の研修大会では三年ぶりに参集型で行なわれ、約930名の会員が参加しました。また、今年より勤続20年表彰が行われ、306名の方が表彰されました。以下、その概要をお知らせいたします。

第一日目 施設長特別研修会

行政説明

「北九州市の保育行政について」

北九州市子ども家庭局

保育課長 三宅 大二氏

令和5年4月1日に施行されることも基本法と新設のこども家庭庁の概要の説明がなされました。

次に保育行政を進める上で、全国と本市の少子高齢化の比較と本市の子育て支援制度の魅力・保育所支援センター・予備保育士雇用費補助・保育士宿舍借り上げ支援事業等の利用実績が示され最後に本市の令和4年度の新規事業として若年層保育士の処遇改善・新型コロナウイルス感染症安全対策事



業・給食食材価格高騰対応事業などの内容説明で締めくくられました。

講演

「こども家庭庁の創設とこども基本法の制定について」

講師

内閣官房こども家庭庁設立準備室

内閣審議官 長田 浩志氏

こども家庭庁の基本理念として、子どもの目線を大事にしていこうことを根底に、子どもの最善の利益を第一に考えた取り組みや、全ての子どもが取り残されることがないよう支援していく子ども真ん中社会の政策立案についてのお話がありました。

また、そのための新たな司令塔としての子ども家庭庁の必要性、基本姿勢、司令塔機能、体制と主な事務等についてなどの解説がなされました。

第二日目 全体会

基調報告

(一社) 北九州市保育所連盟

会長 酒井 光義

今年度は北九州市保育所連盟60周年を迎え、その研修大会にふさわしい大会にしたいと思いコロナ禍ではありますが何とか参集型で開催でき

るようにと検討を重ねて参りました。新型コロナウイルス感染症第7波も落ち着き、数々の行動制限が緩和に向かっている社会状況もあって、いつもの半分の数ではありますが、集まって研修大会が出来たことを嬉しく思っています。そして、今までの新型コロナウイルス感染症の予防対策の中で懸命に保育に携わる職員の皆様へ「お疲れ様、そしてありがとうございます。」と感謝の気持ちとエールを送られました。

報告として、新型コロナウイルス感染症防止対策について、保育所の運営についてしっかりと行政と連携をはかり対応していく事。また、コロナ禍後の保育をどの様な形にしていこうかも今後の課題になっていくのではないかと話されました。次に、相次いで起こった登園バス内での子どもの置き去り事故について触れられ、この事を真摯に受け止め、危機管理に対してもう一度考え直さなければならないと述べられました。

最後に「温故知新」という言葉をもう一度考えてもらいたいと言われ、60年という保育所連盟の歴史を学び、そして新たに得た知識をこれからの保育に皆さんと一緒に生かしていきたいと基調報告を締めくくられました。

実践発表

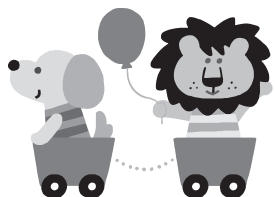
北九州市保育士会

研究部長 坂田 里美氏

令和元年より5歳児を対象に始めた「遊びを豊かにする言葉の研究研修会」は実践記録や園内研修等から学んだこと、言葉かけを中心に7項目にまとめ成果を収めました。

今年度は言葉の獲得が盛んな2歳児を対象に「子どもの言葉を豊かにする研修会」として新たな研究を進めており、今回はマスク着用の影響に関するアンケート結果を数値化した丁寧な発表がありました。そこから読み取れることは、マスクの着用が言葉の発達に何らかの影響があり、コミュニケーションについては特に保育士としての働きかけの重要性を感じていることでした。

今後の展開としては「2歳児言葉の発達調査票」の「言葉に関して気になること」について年間を通して追跡し、分析をすることや保育に役立てるよう分類した北九州版絵本リストの作成を行う予定とのことでした。



活動報告

北九州市保育士会

会長 北野 久美氏

全国保育士会・北九州市保育士会としての活動状況に加え、子どもたちの真の幸福を守るために保育士会が出来ること、しないといけないことを考えていかなければならない。目まぐるしく変わっていく国の施策等の動向から、国がどのような動きをし、何を目指しているのかに注目し、私たちがすべきことを考えていく必要があると報告されました。

私たちの保育という魅力ある仕事を魅力ある職場として発信していきたいと締めくくられました。

記念講演

「全世代型社会保障の構築に向けて」

講師

厚生労働事務次官

大島 一博氏

北九州市と深く関わりのある大島事務次官から社会保障の動向とこども家庭庁の創設に伴う保育の重要性についてビデオ講演がありました。

わが国は高齢化という人口の状況が



変わったことが要因で、社会保障の構築に一層の充実が求められるようになった。1989年にゴールドプランが策定され介護サービスの基盤づくりが行われた。消費税3%の導入で財源を確保し、在宅三本柱として住み慣れた地域での自己実現や自己決定権が保障されるものだった。

この年、65歳以上の高齢化率は12%。現在は28%で高齢化の坂道を上っている最中と言えるが、ピークとなる2040年ごろには35%で390万人、そのうち85歳以上の超高齢者は1000万人を占め、要介護者の増加が危惧される。反比例しているのは労働人口で現在の6200万人が5200万人まで減少すると考えられる。坂道を上り続ける辛さは経済成長

に左右され、出生数の下降線は大きな問題である。財源となる消費税は子育て、少子化対策に使うとして全世代型社会保障へと変わったが、未だに実現できていない。

目指すべき方向や今後の取り組みもまずは子育てに焦点を当てたい。各国の出生率の動向を見ると働き方や男女比、子育てに対する企業の考え方など社会の配慮の違いから変化が生じている。100年前のスウェーデンでは国が消滅するという危機感から大きな政策論争が繰り広げられ、分断と格差を生む危険性を回避する福祉政策が推進された。」

日本の希望は2023年4月に創設されるこども家庭庁である。ポイントの一つは産前、産後から子育てを社会で支える一貫した支援であり、もう一つは地域で支える拠点として保育園がどのように関わられるかということである。こども家庭庁を子育ての核とし育児休業や働き方の改善、一時預かりなどの自分時間の確保など厚みのある政策が望まれる。保育がなければ日本経済は成り立たず、社会の基盤づくりに保育サービスを大切にしたいと考えている。

記念講演を終えて、大島事務次官からはこども家庭庁の核となる保育に注目し、これからの活気あふれる社会に貢献してほしいという熱意を感じました。



（中野丁）主に「園内研修や保護者支援」に取り組んでいます。保育士の人材育成が重要であると考え、講師を招いた内部研修と外部研修を積極的に行っています。市民センター館長の経験や繋がりを活かし、園内研修に養成校の大学教授を招いて保育や保護者対応について学んだり、市民センターの親子あそびに参加し、利用者とのふれあいを通して職員一人一人の保育力（スキル）が向上できるよう、様々な取り組みを計画しています。また保育参観は、市民センター

日収穫したものを今日食べる」ことで、野菜や作物そのものの新鮮さやおいしさなどを実感することができまます。「食べたもので体が健康」という概念を大切にしながら、子どもたちの食への興味や関心が広がると共に大きな成長にもつながってほしいと思います。



（伊達丁）「おばあちゃんのおうち」を目指し、子どもがいつでも「帰ってきてよかったと思える場所」でありたいと思います。令和5年4月からは世代交代しますが、自分の家なので側で見守る形ですと携わっていきたいと思っています。

Q これからの計画や抱負はありますか？
（伊達丁）「おばあちゃんのおうち」を目指し、子どもがいつでも「帰ってきてよかったと思える場所」でありたいと思います。令和5年4月からは世代交代しますが、自分の家なので側で見守る形ですと携わっていきたいと思っています。

（中野丁）0歳、1、2歳児は、人間としての土台を築く重要な時期であり、「養護と教育」の視点で適切な保育環境を準備します。環境は子どもの心の栄養です。その子どもの発達段階、個性に合った環境を整え、自発的な力を発揮できる環境のもとで子どもの成長を見守ります。「教育は与えるものではなく、子どもの成長する力を引き出すもの」が私の信念です。



先生には、家庭的保育事業に関する詳しい説明や事業所独自の様々な取り組みや工夫などについて教えていただきました。両施設共に、事業の特色である子ども一人一人の発達に応じたきめ細やかな配慮がなされた環境や対応と、「もう一つのおうち」と感じられるような温かくゆったりした雰囲気と空間を大切にされていると感じました。地域の子育て支援にも一役買っているこの事業がより多く広まることを願います。



今回は、北九州市で運営されている家庭的保育事業を訪ねました。家庭的保育事業所伊達洋子（八幡西区）と家庭的保育事業所中野摩耶（小倉北区）の二カ所を訪問し、運営されている伊達先生と中野先生にお話を伺いました。

Q 家庭的保育事業とは？

●家庭的保育事業とは、「子ども・子育て支援新制度の中にある地域型保育給付の対象となる自治体の認可事業のことです。」

●特色としては、安全面で十分な配慮がなされた保育者の自宅や専用の保育室などで、家庭的な環境で保育が運営されます。家庭的保育事業は、少人数で行われるため子ども一人一人

の発達状況や性格、興味や関心、その日の体調などに応じたきめ細やかな対応ができ、保護者との信頼関係も築きやすいのが特徴です。

Q 概要について教えてください

●家庭的保育事業 伊達洋子
北九州市八幡西区小嶺台4-16-1
TEL・FAX 093-612-0592

●家庭的保育事業 中野摩耶
北九州市小倉北区清水3-9-9
TEL 093-562-0210
FAX 093-562-0212

◇開所時間：7時30分～17時50分
◇休日：日曜日、祝日
12月29日～1月3日

◇対象：生後57日目から満3歳になつた月の末日まで

◇定員：5名
◇職員：事業者1名、保育士
保育補助者、調理員
（定年制度あり65歳まで）

Q 保育事業を始めたきっかけは？

※伊達洋子（伊達丁）
※中野摩耶（中野丁）
（伊達丁）以前保育所に勤めていた



時に子どもを保育するにあたり、大きな集団の中で育つ良さも感じながら、家庭的な場と雰囲気の中で少人数でゆったりとした保育をしたいという思いが強まり今があります。保育を少人数で行うことで「一人一人をゆつくりと包む」保育ができ、子どもの言葉にならない言葉をたくさん聞くことができます。



Q 特に力を入れている取り組みはありますか？

（伊達丁）主に「食育」に取り組んでいます。隣の敷地にある畑に、年間を通して10種類の野菜や作物を栽培し、毎月1、2回のクッキングを実施しています。菜園活動を通して野菜の生長や形、色などを知ると共に「今

索していました。兼ねてから興味をもっていた北九州の「元気発進！子どもプラン」の取り組みである「家庭的保育事業」の応募資格を満たしていることを知り挑戦しました。

研修・一期一会

第65回全国保育研究大会

令和4年10月20日(木)「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」というテーマで、第65回全国保育研究大会(山形大会)のオンラインによる研修大会に参加させていただきました。

オープニングでは、園児がさくらんぼの帽子を被り「さくらんぼ体操」を踊る姿や、ユーチューバー・たつたいさんが保育園児とさくらんぼ狩りを行う様子などから、山形県の良さを感じることができました。

山形県保育協議会会長 岡崎恵子氏による開会挨拶では、少子化問題や保育の質の向上・処遇改善・人材確保など、現在の保育状況のお話がありました。こども家庭庁が創設、子ども基本法の施行が「こどもまんなか社会」のスローガンで終わるのではなく、しっかりと形にし、機能することを願っていると熱く語られていました。

厚生労働省子ども家庭局 保育課長 本後健氏による行政説明では、保育に関わる様々な施策や、児童福祉法の改正、こども家庭庁の創設といった国の大きな動きについての話がありました。

全国保育協議会 会長 奥村尚三氏による基調報告では、新型コロナウイルス感染症対応、安全管理、物価高騰についてのお話や、委員の実態調査2021の内容報告、制度動向、人口減少地域における、保育をとりまく課題と全保協の取り組みを話されました。行政説明、基調報告を伺い、保育士として、保育をめぐる国の動向について、しっかりとアンテナを立てて情報収集していく必要性を感じました。

記念講演では「コロナ禍における保育で大切にしたいこと」(アタツチメントと非認知的な心の発達)というテーマで、東京大学教授 遠藤利彦氏よりアタツチメントの果たす役割についてのお話がありました。社会性をはじめとする子どもの心の

発達は、人と関わることで育まれますが、コロナ禍で行事が中止されたり、園児同士が距離をとり、食事や遊びを行うなど、人と人との物理的距離の確保が求められる中で、子どもに安心感を与えられる保育、アタツチメントの大切さを再確認することができました。

分科会では「保育者の資質向上を図る」というテーマで、中村学園大学教育学部教授 那須信樹氏のご助言、ご指導のもと、民営化・職員との意識共有づくりを通した新たな保育環境での実践、魅力ある保育士・保育教諭になるための「自己評価」(魅力ある教育・保育施設づくりのため)に、研修を通した職員の資質向上に向けた効果的・具体的な実践で、3園が実践発表されました。

今回、全国保育研究大会に参加させていただき、変動する社会情勢の中で、新しい情報を得てそれを自分のものとし、保育に反映させていくことの大切さを感じました。

これからも、未来ある子ども達に寄り添い、思いを受け入れ、保育の質を高めていけるよう、保育士として、日々振り返りながら成長していきたいと思っています。

門司保育所みどり園 福田千佳

寄付

(一社) 北九州市保育所連盟
(公社) 北九州市私立保育連盟・
北九州市保育士会

へご寄付

藤田保育園 園長 後根泰定
様より秋の叙勲受章にあたりご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきますとともに心から感謝申し上げます。

(公社) 北九州市私立保育連盟

へご寄付

社会福祉法人 誠心福祉会
前理事長 故仁科盛博様より
保育事業発展のためご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきますとともに心から感謝申し上げます。

元気のもと

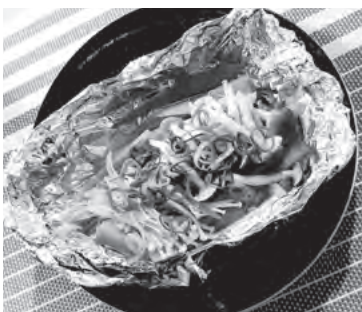
戸畑 篇

男メシⅠ

私は、保育士になって四年目になりました。一人暮らしをしながら働いている中で、食事の大切さに気がつき、考えるようになりました。

私の母は、保育園の調理師をしており、幼い頃から、母と一緒に台所に立つこともあり、私自身、料理が好きでした。専門学校に通っている頃から一人暮らしをしており、自炊は慣れているつもりでした。しかし、働き始めてからは、自炊することが減り、コンビニのお弁当やスー

パーのお惣菜で済ませる様になりました。自分の好きな物ばかりを食べてしまい、栄養バランスの偏りも多くなりました。そうしているうちに、職場で貧血を起こすこともあったり、体調をくずし



たり、朝起きれなかったりする事も増え、園長先生からは、朝食をしつかり摂ることや、様々な料理レシピを教えていただきました。母親にも栄養バランスについてのアドバイスをもらい少しずつ自炊することを意識できるようになりました。

コンビニに行く回数も少なくなり、毎日の夕食を考える事も楽しくなりました。日々の食事をしっかりと摂ることで、今では体調を崩すこともなく、体を良好に保って働けていることを実感しています。最近ではトマトを使ったソースにはまっています。冷凍庫に常備し、色々な料理に使えるので重宝しています。これからも仕事も食生活も大切にしていきたいと思っています。

男メシⅡ

「昨日、観た？」某番組の次の日は、職員と料理の話題で盛り上がりま



「またお願いします」の食卓での会話のやり取りをする様になりました。

料理をしていくと調味料や食材等、試行錯誤しながら作る事が、いつの間にか心の癒しの時間と元気の源になっていました。

まずは、番組で紹介されたメニューを参考に作っていきま



子どもたちも、私が作ることで、手伝ってくれる様になり、皆で作ると美味しさも倍！食卓の会話も賑やかです。自身の料理のスキルも上がり、朝食や子どもの弁当も作れる様になりました。料理をした次の日に職場で報告する時間も「また作るぞ！」とやる気スイッチが入る場になっています。これからも色々なレシピを覚え、発見しながら料理の腕を磨き「男メシ」を追及していきたいと思っています。